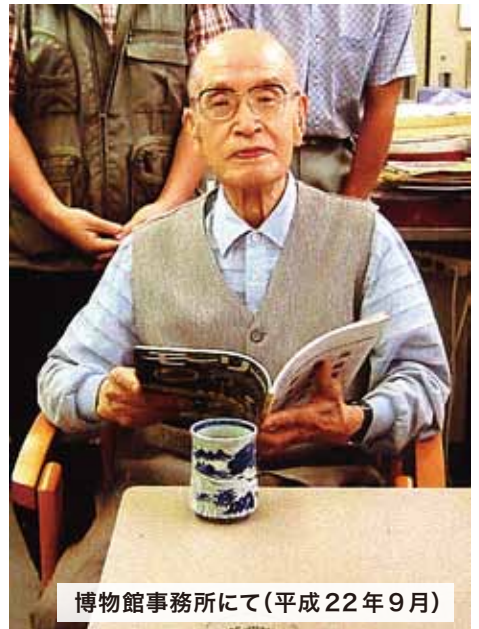


## 金 喜多一さんを偲んで



講座で川端家の辞令文書を解説する金さん(平成7年8月)



博物館事務所にて(平成22年9月)

博物館や斜里町の文化財全般に30年以上にわたりご指導をいただいております金 喜多一(こん きたいち)さんが、平成26(2014)年2月9日午前6時5分に亡くなりました。享年103歳でした。

金さんは、明治43(1910)年に北海道古宇郡泊村で生まれ、昭和5(1930)年に北海道庁立小樽商業学校を卒業後、樺太にわたり敷香町(現在のポロナイスク)役場に奉職しました。太平洋戦争終戦に伴い、昭和22(1947)年に樺太から帰国、2年後の昭和24(1949)年に斜里町酪農業協同組合に就職されました。昭和28(1953)年に斜里町農業協同組合に移られ、同41(1966)年定年まで勤務されました。斜里町農業協同組合に在職中には日々の業務の傍ら、斜里農協史を製作するための資料収集、執筆、編集等に取り組み、翌年の昭和42(1967)年5月に発刊されました。その後、昭和43(1968)年に斜里地方共同職業訓練所(後の訓練所センター)事務局長になり、訓練センターが閉所されるまで勤務されました。昭和45(1978)年からは知床博物館の前身・しれとこ資料館運営委員を勤められ、昭和53(1978)年の知床博物館開設後は、知床博物館協議会委員や斜里町文化財調査委員会委員を歴任されました。

金さんの研究テーマは民俗史や歴史に関するもので、緻密な資料収集と資料の詳細な解析、その結果をこつこつと記録に残していくという地味ですが、後世に残る大切な仕事をされました。一例を挙げると、古写真の解析(いつ頃の何の写真か)や、古文献(近世から昭和初期)の文字解読などです。

金さんは斜里町に関する郷土史研究等の功績から昭和54(1979)年に斜里町民顕彰の文化功労賞を受けられ、平成5(1993)年には北海道博物館協会からの表彰、同8(1996)年には日本善行会から表彰されております。90歳を越えられても斜里の地を愛し、体調の良い日は博物館にいられて古文献や写真等の

資料に目を通すという、かくしゃくとした研究姿は、職員の模範となっていました。

とても穏やかな金さんが、博物館で小泉さん、高桑さん、日置さん(三方とも故人)らと昔の斜里の話がされていたのを懐かしく思い出されます。この四人の方々のご尽力により、博物館は発展して来たのだと思います。皆さん、天国で仲良くご歓談されているでしょう。知床博物館にとっては、一つの歴史が終わったという寂莫感が頭の中をよぎります。

長い間の指導に感謝申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

(松田 功)

### 金さんの主な研究成果

#### ◎町史等執筆や編集

- 1967年 「斜里農協史」執筆と編集
- 1969年 「斜里町史」第2巻 執筆と編集
- 1979年 「斜里漁業史」執筆と編集

#### ◎斜里町郷土研究(斜里町郷土研究会)第1~12号全てで執筆(代表的なものだけ列記)

- 1973年 「津軽藩士斜里警備関係前後の年表」第2号:p7
- 1980年 「斜里郵便局における創業年月日の疑問」第9号:p11-13
- 1984年 「会津藩の斜里警備ともう一人の代官」第10号:p46-49

#### ◎その他

- 1975年 史料紹介「明治40年斜里郡農会会報から」しれとこ資料館報告2:p11-12
- 1981年 「斜里市街地における町並みの変遷-あわせて商工業盛衰の跡をさぐる-知床博物館研究報告第3集:p59-74
- 1981年 斜里-下町の歴史散歩- 知床博物館第3回特別展図録
- 1984年 知床半島西岸の地名と伝説 郷土学習シリーズ第6巻
- 1986年 地名探訪しゃり 郷土学習シリーズ第8巻
- 1996年 「斜里神社創建200年に思う」知床博物館研究報告第17集:p41-44

発行 知床博物館協力会 2014.2.25

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49  
斜里町立知床博物館内

TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257  
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>